

2015年3月26日、パリ

カントリーリスク / 事業環境評価、四半期最新データ

コファス、欧州2カ国のカントリーリスク評価を格上げ
 ブラジルは「見通しネガティブ」に
 ロシアの事業環境評価は「C」に格下げ

カントリーリスクの改善は、2015年に成長率の上昇が予想される(2.1%)先進諸国においてますます顕著になっている。ユーロ圏では、ドイツ及びスペインに牽引されて、オランダとベルギーが1段階上昇という2つの明るい変化があった。だが、新興市場諸国では変化は非常にさまざまである(予想成長率は4.2%に下方修正された)。ブラジルとエクアドルは「見通しネガティブ」となり、ロシアの事業環境評価は格下げとなった。

ベルギーとオランダはA2に格上げ、ユーロ圏の回復を裏付ける

2014年のドイツ、スペイン、イギリス、オーストリア、また2015年初のポルトガルの格上げに続いて、ベルギーとオランダの格付もA2に上方修正された。これによって、ユーロ圏が徐々に成長を回復しつつあることが裏付けられている(コファスの予想では、2014年の0.9%に続いて、2015年は1.3%)。

両国の成長に貢献しているのは、家計支出、輸出、投資である。企業倒産件数は引き続き減少している。ベルギーでは政府が財政再建に集中するなかで政治情勢が安定を増している。オランダでは今年初め、不動産価格の上昇に伴い(2013年の底値に比べ、2015年1月は3.6%上昇)、建設部門における企業信頼感が上昇したことが目を惹いた。

不調に陥ったラテンアメリカ

新興市場諸国のトレンドはバラバラである。

良いニュースという点でトップを走るのはチュニジアで、「B」評価に「見通しポジティブ」が添えられた。カンボジアは「C」に格上げされている。

- チュニジアでは、政権移行の完了によりビジネス環境が改善され、テロ攻撃の脅威によって動揺する可能性も低い。チュニジアの2015年の成長率は、農業生産の拡大と工業部門における経済活動の強化に支えられて、2014年に比べ0.5ポイント上昇する見込みである(3%)。また、石油価格の低下と、主要な輸出先である欧州の景気回復といった国際経済環境の改善も、チュニジアにとっては追い風となっている。観光業は短期的な治安リスクに悩む可能性が高い。
- カンボジアは引き続き成長への道を歩んでいる。経済活動は力強く、GDP成長率は2011年以来7%以上を記録している。これを支えているのは、観光部門と、欧州連合、米国、カナダ市場への特恵的アクセスが認められている

繊維製品の輸出が順調なことである。中国、ベトナムからカンボジアへの工場移転のおかげで外国からの直接投資は増え続けており、エネルギーインフラ関連プロジェクトを背景に設立されている官民パートナーシップも増えている。

ラテンアメリカは、コモディティ価格の下落及び中国空の需要の減少など、経済・政治の不確実性により深刻な影響を受けている。これは、2014年に大きな対外流動性リスクに伴う厳しい試練を体験したヴェネズエラ、アルゼンチンに限った話ではない。ブラジルの「A4」、エクアドルの「B」は、現在「見通しネガティブ」となっている。

- ブラジルでは、支出・投資が減少しているため、2015年中に景気回復が見られる可能性は低くなっている（予想成長率はマイナス0.5%）。工業部門は引き続きインフラと有資格労働者の不足に悩まされる見込みであり、工業用水不足と計画停電の可能性といったリスクが高い。自動車産業は主要市場であるアルゼンチンの景気減速に悩まされており、建設部門及び沖合油田事業も、ペトロbras（Petrobras）社の汚職スキャンダルに続く投資の減少による影響を受ける可能性が高い。
- エクアドルは、ヴェネズエラに次いで、この地域で石油価格下落の影響を最も強く受けている国である。財政赤字は拡大しており、成長はかなり減速している（2014年の3.8%に対し、2015年は1.5%）。エクアドルが安定的な財政を維持するには石油価格が1バレル120ドルを保つ必要がある。経済のドル化を行ったことで、財政の調整のために通貨の切り下げを行うことも困難になった。また石油以外の輸出についても、特に欧州向けに関しては競争力を低下させている。

ロシアの事業環境はかつてないほど脆弱に

2014年10月にカントリーリスク評価が「C」に格下げされたロシアは、今回は事業環境の点でも格下げとなった。現在「C」評価となっているロシアの事業環境は劣悪であり、特に財産権の保護という点で顕著な欠陥がある。企業統治（ガバナンス）及び透明性の点が弱いことが今回の格下げの一因となっているのに加え、2014年に実施された制裁により、一部の部門における企業活動が困難になっている。ちなみにロシアは、世界銀行がまとめる腐敗抑制に関する企業統治指数において176位（215カ国中）にランクされており、これも弱点として繰り返し表れている。

連絡先:

ジョナタン・ペレス - Tel. 03 5402 6108 – jonathan.perez@coface.com

コファスとは

取引信用保険で世界有数の企業であるコファス・グループは、国内及び輸出取引において、取引先の債務不履行のリスクからお客様を守る為のソリューションを、全世界の企業に提供しています。2014年には、4,406名のスタッフのサポートによって、コファス・グループは14億4100万ユーロの連結売上高を計上しました。98か国における直接的及び間接的なプレゼンスによって、コファスは40,000を超える企業の200か国以上にまたがる取引をカバーしています。コファスでは、企業の決済動向に関する独自の知見と、350名のアンダーライターの専門知識に基づいた、160か国に及ぶカントリー・リスク評価を四半期毎に発表しています。

フランスでは、コファスはフランス政府の輸出保証の管理をしています。

www.coface.jp

コファスSAはユーロネクスト証券市場のA部にて上場しています。
ISINコード: FR0010667147 / ティッカーシンボル: COFA



資料

コファス・カントリーリスク評価は、短期的な商取引という背景において、ある国の企業が被る平均的な不払いリスクを測定するものである。これには政府債務は含まれない。評価を行うにあたって、コファスは当該国の経済、政治、金融の概況、コファスの把握する企業の支払状況、当該国のビジネス環境を総括する。

カントリーリスク及び事業環境評価は、A1、A2、A3、A4、B、C、Dの7段階評価だが、これに見通しの区分が付記される場合もある。

評価引き上げ、見通しネガティブのリストからの削除、見通しポジティブのリストへの追加が行われた国

国名	過去の評価	新たな評価
ベルギー	A3	A2
オランダ	A3	A2
チュニジア	B	B
カンボジア	D	C
レバノン	C	C

評価引き下げ、見通しポジティブのリストからの削除、
見通しネガティブのリストへの追加が行われた国

国名	過去の評価	新たな評価
ブラジル	A4	A4↓
エクアドル	B	B↓
シエラレオネ	C↓	D

コファス・事業環境評価は、総合的なカントリーリスク評価の一部であり、カントリーリスク評価と合わせて発表される。企業に関するデータの入手可能性と信頼性、法的な債権者保護を評価し、制度的環境の質を考慮する。ビジネス環境評価はA1、A2、A3、A4、B、C、Dの7段階評価であり、カントリーリスク評価と同様に、1段階下がるとリスクが上昇する。

評価引き上げ、見通しネガティブのリストからの削除、
見通しポジティブのリストへの追加が行われた国

国名	過去のビジネス環境評価	新たなビジネス環境評価
トーゴ	D	C

評価引き下げ、見通しポジティブのリストからの削除、
見通しネガティブのリストへの追加が行われた国

国名	過去のビジネス環境評価	新たなビジネス環境評価
クウェート	A3	A4
ロシア	B	C
ウガンダ	C	D